

地域づくりインターン事業

7月26日から8月14日にかけて、地域づくりインターン事業が行われ、首都圏を中心に4名の大学生がインターン生として、本町で農業体験や地域での聞き取り取材などを行いました。そのインターン生の声を紹介します。

このインターン事業に対して、受け入れ家庭をはじめ町民の方々に多大なるご協力をいただき、この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

伊藤 麟太郎さん（派遣期間：8月1日～8月14日）

今回、実際に鹿児島に来てみて、自分の地元との違いを多く感じました。カルチャーショックです。

まず言葉ですが、鹿児島弁による会話は歴史的な経緯もあるとのことですが3割ほどしか理解できず、そのことはとても衝撃的でした。個人的に「やっせんぼ」という響きが面白くてたまりません。また大概のレストランで漬物が出される習慣や、『なんこ』という大人の遊びも学び、文化的にも面白い地域だなと感じました。焼酎をかなりの頻度でたしなんだことも今では良い思い出です。

お世話になった遊喜さんと松元さんには、大滝や海、山など様々なところに連れていってもらったほか、農業、造園、養殖漁業などを体験させて頂きました。

また、竹灯籠づくりや新聞づくりなどを通じた役場の方との関わりの中で、地域をより良くしていこうというエネルギーを身近に感じました。

錦江町には山、海、川、夕陽、農業、星空など都会にはない資源がたくさんあります。これは自分勝手な意見かもしれませんが、やはりこれからは他とは違う個性が重視される時代だと思うので、錦江町には今ある独特な文化や資源を大切にして、都会と言われてる地域とは違う別の方向に発展して欲しいです。今回は口蹄疫の影響によりイベントに関われなかったのは残念なことでしたが、口蹄疫は畜産業だけでなく観光業にも大きい影響を与えるということに気付きました。

このインターンはきっかけであり、この2週間のたくさんの貴重な出会いや経験をどのように次に繋げるのか、そのことが課題だと考えています。今回のことについて発表の機会が何回かあるので、錦江町の魅力をPRしたいと思います。また来ます!!



受入家庭の遊喜光君と兄弟のように



受入家庭の松元さん家族と一枚(上)
きれいな虹にビックリ!(右)

